

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの 史跡探訪ガイドブックⅢ



東大阪・大東・四條畷コース



大東市御領 段蔵とせせらぎ水路の田舟船乗り体験



東大阪市 鴻池新田会所



四條畷市 小楠公墓の大楠

.....大和川市民ネットワーク.....

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの史跡探訪ガイドブックⅢ

東大阪・大東・四條畷コース

もくじ

はじめに	3
新開池と鴻池新田会所	4
大和川つけかえより前に井路を造った農民たち	5
中甚兵衛の生きた村 今米	6
☆コラム 川中家屋敷と河内扇 生駒山麓 日下の河澄家	
旧吉田川の跡にひろがるまち	8
☆コラム 花園ラグビー場 花園創菓庵松一の「甚兵衛」まんじゅう 大阪商業大学商業史博物館	
西堤地区と第二寝屋川	10
川中家屋敷林と大東・四條畷の植物	12
東大阪コース探訪マップ	14
朝鮮半島からの渡来人が拓いた馬飼いの里	16
四條畷市立歴史民俗資料館	17
大東市立歴史民俗資料館で学ぼう	18
☆コラム 四條畷合戦と小楠公墓 飯盛山と三箇 河内キリシタン	
舟運でにぎわった住道	20
☆コラム 昔の寝屋川 太子田あたりの川と樋門建設の記録	
深野池の新田開発と平野屋新田会所	22
野崎参りの観音さん	24
☆コラム 京都と高野山につながる古い道 古堤街道と奈良街道 獵師とガンの物語を伝える「鴈塔」	
水郷のまち 御領の町並と田舟体験	26
☆コラム おかげ燈籠と「ぬけ参り」	
大東水害と寝屋川総合治水	28
大東・四條畷コース探訪マップ	30



大東市の古い写真は、大東市教育委員会「だいとう学」テキスト等から使わせていただきました。お礼申し上げます。

はじめに

この地域は大和川つけかえ運動の中心となった河州四郡（河内・若江・讃良・茨田）にあたります。中甚兵衛が暮らした今米など、大和川つけかえの運動とその後の新田開発を知りたいへん重要な地域です。

大和川つけかえによって、広大な池や川跡が田畑になり、米や綿が作られました。地域のくらしは大きくかわり、大阪の社会や経済に大きな影響をもたらしました。

見なれたまちの水路や坂道、建物や街並みが、大和川つけかえの歴史を伝えています。鴻池新田会所など著名な史跡とともに、現代の過密都市の中でも、川や水路、池や堤の跡が見つかります。失われた新田会所についても調査や研究が続いています。

現代に続く治水対策や下水道事業についても学びましょう。

まちの現状や市民のまちづくりの取り組みにもふれ、わがまちへの想いが深くなることでしょう。

ご家族やグループで現地を訪ね、新たな発見をお楽しみください。遠足など、先生方や子ども達の学習にもお役に立てば幸いです。



深野池や新開池がある、枝分かれした大和川が御城の北で淀川と合流している、徳庵井路ができているなどから、17世紀後半のものようです。

しんがいけ こうのいけしんでんかいしよ 新開池と鴻池新田会所

大和川つけかえ後、新開池は井路を掘って水が抜かれ、1707年に約158haの新田が造成されました。鴻池善右衛門宗利とその子宗貞によって新田の造成がすすめられました。その後、隣接する新田の買収がすすみ、江戸時代の終わり頃には鴻池新田の面積は約200haになりました。

会所では、鴻池家から派遣された支配人の管理下で、小作人からの小作料や肥料代の徴収、幕府への年貢の上納、耕地や水路、家屋の管理、宗門改帳の作成、老人への米の配布、幕府や鴻池家からの指示伝達などをおこないました。鴻池新田は幕府領（天領）だったからです。

新田では、小作人がおもに米と棉を栽培しました。実綿だけではなく綿を使った製品は小作人の収入源になっていました。

鴻池新田会所

10,662 m²の会所敷地には、本屋、蔵のほか、長屋門、居宅、朝日社などの伝統的な建物群と庭園が残されています。敷地は1976年に国の史跡に指定され、1980年には本屋、屋敷蔵、文書蔵、米蔵、道具蔵と、棟札と納札6点が重要文化財になりました。棟札の年代から、開設以来、増改や地震・水害による破損で修復がくりかえされてきたことがわかります。1985年から11年間、江戸時代末期嘉永年間の状態に復元する解体修理がおこなわれました。

堀に囲まれ周囲より一段高くなった敷地に、広い土間と太い柱や梁に支えられた本屋、開放的で簡素な本屋の座敷、中庭に面して並ぶ蔵群など、民家建築と比べて飾りが少ない反面、スケールが大きい点が特徴です。生駒山を借景とした庭園には弁天池や築山の周囲に園路が巡らされ、庭石や石燈籠が所々に配置され、木々の移り変わりや景色の変化を眺められる「回遊式庭園」になっています。常緑樹が多く、カヤやクスノキの巨樹があり「大阪みどりの百選」の一つです。

鴻池新田会所の建造物は、東大阪市によって公開されています。維持管理と研究活動、綿繰りや染色体験などの普及活動や、ジャズや落語、コスプレ撮影会会場としても親しまれています。

入館料：大人 300 円 小中学生 200 円 休み：月曜日 ☎06-6745-6409

ホームページ <https://konoikeshindenkaisho.jp/>



国史跡・重要文化財指定「鴻池新田会所」



「史跡重要文化財鴻池新田会所解説パンフレット」より
初めの頃の田地■と畑地■の様子

大和川つけかえより前に井路を造った農民たち

徳庵井路

1655 年、奉行所の許可を得て農民の普請で新開池の排水のための徳庵井路が造られました。徳庵橋から新喜多の極楽橋付近まで同じ幅で約 2.5km まっすぐに造られ、現在は寝屋川の一部になっています。井路とは用水路と排水路の役割をもつ人工的な水路のことで、船が行き交うこともありました。

井路をつくり、管理した村々は「徳庵組」といい、「大和川のつけかえ」を最後まで求めた村々でもあります。

大和川つけかえ後、深野新田にできた村が徳庵井路に悪水を流したいと申し出た際には、井路の中に柵を設け、水路が交わらないようにするなど、厳しい管理を行っていました。

六郷井路と五箇井路

六郷井路と五箇井路も大和川つけかえ前にすでに造られています。六郷井路は 1661 年に開削された記録があり、2 つの井路は上流の古箕輪付近の「水路の交差点」で交わり、「藤五郎樋」によって水位調節されています。江戸時代は、ここまで乗合船が来ていたようで、人や荷物の運搬路の役割もあったことがわかります。

この 2 つの井路は徳庵橋付近で徳庵井路（寝屋川）に合流しています。現在は合流点の徳庵橋のたもとにポンプ場があり、このポンプ場が寝屋川と六郷井路・五箇井路の水位を調節しています。大阪湾の潮の満ち引きは寝屋川を伝って住道駅あたりまでやってきますが、徳庵ポンプ場のおかげで六郷井路や五箇井路には潮が入ってくることはありません。

1 か月間も浸水が続いた 1885（明治 18）年の淀川大水害を忘れないようにと、ポンプ場内にはその時に浸水した高さに船が吊り上げられています。ポンプ場の近くの石碑も河内一帯の大水害を伝えています。

もじり樋とせせらぎ水路

（※もじり……上からかぶせること）

「もじり樋」は、新しい水路が元からあった水路の下をくぐる「伏せ越し」という仕組みになっています。鴻池井路は鴻池新田開発前にあった加納井路の下を通っています。

現在、鴻池井路跡は埋め立てられ、約 3km の区間に遊歩道と水路（「せせらぎ水路」）を設けて親水空間として整備され、そこには鴻池水みらいセンターの処理水が流れています。



古箕輪「水路の交差点」の藤五郎樋
以前は管理用の建物があった



徳庵橋の北東にある淀川大洪水記念碑
丹北高安～若江淀川郡長が建立と刻む

中甚兵衛が生きた村 今米

大和川つけかえに大きな役割を果たした中甚兵衛は、
1639年に河内国河内郡今米村に生まれました。玉串川がさ



2005年に建てられた
「中家屋敷跡」標柱

らに分流した吉田川に近く、甚兵衛もその氾濫を間近で見、年々川底に砂がたまり、天井川になっていく様子に心痛めたことでしょう。

甚兵衛の生家・中家は今米村の庄屋を代々務め、その屋敷は1911年まで、今の近鉄けいはんな線吉田駅の北約10分のところにありました。水害から屋敷を守るた



晩年の肖像画。甚兵衛はつけかえ完成後に剃髪し乗久と名乗った

めに、周囲に積んでいた石垣は現在も残っています。

今米公園に中甚兵衛顕彰碑

大正3(1914)年11月に中甚兵衛に従五位が贈位されました。河内の偉人として認められたことを村の名誉と考えた人々が、碑を建てようと計画しました。翌年、今米村の氏神の春日神社が吉原の栗林神社に合祀されたため、その跡地に建てることになりました。現在の今米公

園で、春日社の名残りとして狛犬の石像が残されています。落成を祝って盛大な式典がもたれたようです。



中家屋敷跡 東西25間(約45m)南北30間(約54m)
750坪(約2500㎡)あった



中甚兵衛顕彰と前方左右に2004年に設置された解説板 その前に狛犬がある

大きな石碑の裏に由緒が書かれていますが、姫路藩主本多忠国が病死した後は幕府と諸藩で工事を分担したことが書かれていない、起工は元禄17(1704)年2月27日なのに元禄16年10月とまちがっているなどの問題がありました。

東大阪市は、2004年、大和川つけかえ300周年記念事業として、解説板を新設して記述を改めています。合わせて鴻池新田会所へのコースの各所に案内板を設置するなど、「歴史の道」を整備しました。

かわなか け

川中家屋敷と河内扇

落ち着いた民家が並ぶ今米の路地の一角に、常緑樹の林に囲まれた川中家住宅があります。主屋と書院は国の登録有形文化財です。

東大阪市設置の「川中家と屋敷林」の解説板には、今米村甚兵衛の兄善右衛門が初代で、甚兵衛の生家であり、つけかえ時の流域を描いた「河内扇」がある、などと書かれています。

しかし、中家家系図では、甚兵衛の兄は太郎兵衛です。

甚兵衛の娘が河内屋五郎平に嫁ぎ、その縁で吉田川跡の開発をして東川中家を興し、後に独立した子供が興した西川中家がこの川中家にあたります。

そこで、現在は、川中家の見学の際に「甚兵衛ゆかりの家」と解説されています。

「河内扇」は、大和川つけかえから 130 年以上後に、遠い祖先が大和川を「泉（和泉）のさかひ（堺）」に落とさんと、幕府に願い出た時のものだと聞いたという記述（河内郡下喜里川村庄屋中西多豆伎）があります。しかし、願い出るための設計図ではなく、完成後の図であり、署名は甚兵衛ではなく川中三郎平常澄となっています。



川中家住宅 南から



川中家に伝わる「河内扇」

生駒山麓 日下の河澄家

旧河澄家は東大阪市指定文化財で、江戸時代初期の建物を公開し、イベント展示や貸し会場として運営されています。

甚兵衛には、2人の娘と末の息子がいて、娘の1人は河澄作兵衛に嫁ぎました。甚兵衛の後に庄屋を継いだ末の男子の九兵衛重豊と、その子九兵衛重正の娘も河澄家に嫁いでいます。現在の十代目九兵衛好幸さんのお母さんも河澄家の出身で、歌人石上露子が生まれた富田林寺内町の杉山家も親戚です。

河澄家は、江戸時代に代々作兵衛と名乗り、日下村の庄屋を務めてきました。1776年に『雨月物語』を刊行した上田秋成が十五代目の当主常之と親交を結び、多くの文人が集う文芸サロンとなっていました。

棲鶴楼という数寄屋風の書院造りの間や枯山水の庭、樹齢500年といわれる幹まわり5mもあるかやの木が有名です。

入館料無料 休み:月曜日 ☎072-984-1640

ホームページ www.kyu-kawazumike.jp



旧河澄家 2018年 大和川かゝるた展がもたれた

旧吉田川の跡にひろがるまち

玉櫛（玉串）川は、近鉄奈良線河内花園駅の近くで菱江川と吉田川に分かれ、吉田川は今米村から深野池・新開池を通して放出付近で菱江川と長瀬川に再合流していました。これらの川は江戸時代初めから川底が上がり始め、1675年には川の方が田地より3mも高くなっていたと記録されています。



花園商店街から南の住宅地への坂道



英田北小南門横の「松原宿跡」碑と説明板（詳細は25ページ）

河内花園駅から、けいはんな線吉田駅に向けて歩くと、吉田川の跡がわかることが多く残っています。天井川だった吉田川跡の花園商店街の方向、周囲の住宅地より高くなっているのです。



(旧版) 東大阪市文化財マップ(D地区)より

花園ラグビー場

1928 年、秩父宮が関西に来たときに、大軌（現近鉄）沿線に専用のラグビー場を作るよう進言してできた、日本で最も古いラグビー専用グラウンドです。

毎年、全国高等学校ラグビー全国大会が開催され、高校生ラグーマンにとって、野球の甲子園のような憧れの地です。2019 年にはラグビーワールドカップの試合の会場となりました。

吉田川の新田跡の砂地を利用しているので水はけが優れています。ラグビー場の地下に、水害対策として周辺河川が増水した場合に備え、一時貯水施設が造られています。耐震貯水槽も設置され、飲料水・防火用水兼用の緊急用災害時給水所にもなっています。



あんこたっぷりです。包み紙には中九兵衛さんの解説、お店の包装紙には中家所蔵の絵図が載っています。

花園創菓庵松一の「甚兵衛」 まんじゅう

松一さんは花園商店街本店と稲葉店があり、郷土にちなんだお菓子の創作を考え、甚兵衛十代目の中九兵衛さんに出会い、郷土銘菓「河内甚兵衛」を生み出しました。

「河内扇」やラグビー饅頭も人気商品です。

お店のホームページには、「中甚兵衛ものがたり」のページもあり、中九兵衛さんの指導で和川のつけかえを学ぶ4年生にも理解できるよう、やさしい文章で書かれています。

ホームページ <http://www.jinbei-matsuichi.com/>

大阪商業大学商業史博物館

商業史博物館は国の登録有形文化財の谷岡記念館に設置された資料室で、1999年に博物館相当施設に指定されています。江戸時代の都市大坂のまちと商人の活動を体系的に解説し、大和川つけかえ前の淀川と大和川の合流がわかる1687年「新撰増補大坂大絵図」も展示されています。河内の綿作にまつわる農具や史料の展示も豊富です。

ただ、大和川つけかえについては、今米村の川中九兵衛らが運動に立ち上がり、子の甚兵衛に引き継がれたなどの解説については、注意が必要です。

ホームページ <https://ouc.daishodai.ac.jp/museum/about>



大阪商業大学商業史博物館とアミューズメント産業研究所がある谷岡記念館

西堤地区と第二寝屋川

第二寝屋川は、淀川水系の一級河川で、東大阪市内の川の中では寝屋川に次ぐ大きな川です。

第二寝屋川がある地域は、旧大和川が玉串川と長瀬川に分かれて流れる間に細く楠根川が流れていた場所です。

水源である恩智川の水は増水時のみ流れ込む仕組みで、実質的な水源は玉串川といえます。東大阪市・八尾市境のまっすぐな流れと長瀬川合流地点から平野川合流地点までは、寝屋川・恩智川の水害対策として、1969年に開削された新しい流路です。



東大阪観光協会 まち歩きマップ
「西堤」御厨「ノース」より

楠根川の合流点より北、寝屋川合流地点までは、かつての楠根川の流路でしたが、開削・つかかえ・拡張にともなって第二寝屋川に編入され、旧河川域は埋め立てられています。

にしづつみ ないすけふち しんがいき 西堤は勿入渚・新開池の西だった

大東市諸福から東大阪市鴻池辺りにあった旧河内湖は、平安時代の「枕草子」に勿入渚（入ってはいけない沼）と言われ、江戸時代には内助渚と呼ばれていました。

その西堤の人達が430年ほど前、戦乱の地をさけてこの地に移住し開発したのが「西堤」だそうです。この地は、排水が悪く田畑に水がたまって困りましたが、日照りの干害にも苦しみました。人々は、西堤神社の池にある鱗殿と呼ばれる水神社で雨乞いの祈願をしました。神社には、内助が大蛇になって火



大東市諸福6丁目にある勿入渚碑と説明板 信号は古堤街道との交差点。すぐ南が寝屋川の諸福橋

を吹き、水神が格闘し鱗を残して去ったという伝説があります。大東では内助の妻と鯉の娘の伝説なども伝わっています。

池や湧が無くなっても古代から続く地名が生きているのです。下小阪のしもこさか小阪神社も西堤の人たちと一緒に移ってきたということです。

新喜多と藤戸 三井新田

大和川がつけかえられるのにもない、元の川床・池床・堤・河川敷が、新田として開墾されました。

1704 年に拓かれた新喜多新田は、長瀬川から旧大和川下流にかけて約 56 万㎡に及びます。京橋あたりから東大阪市域に及ぶ新田で、周りの湿地や沼地が次々に水田となり、この辺りが開けていくきっかけとなりました。

鴻池新十郎、鴻池喜七、今木屋多兵衛の三人が開墾し、名前の一字ずつを取って新喜多新田と名づけました。新田会所は現在の城東区新喜多にありましたが、東大阪市内にも新喜多の地名や、新喜多中学校という校名として伝わっています。



大阪市城東区新喜多東 1-8 新喜多新田会所跡

長瀬川、楠根川、玉串川の川床には、合計 68 町歩（約 68ha）の新田が拓かれました。開発者は新家村の菱屋庄左衛門・岩之助で、それぞれに屋号の「菱屋」をつけ、菱屋西新田（長瀬川跡）、菱屋中新田（旧楠根川跡）、菱屋東新田（菱江川跡）としました。

東大阪市御厨 5 丁目 2 に「三井新田会所跡」があり、3ヶ所に分散していた菱屋新田を集約して管理していました。菱屋 3 新田は 1732 年に越後屋（三井家）の所有となりました。

会所は 1955 年ごろに廃止され、敷地の西半分は道路になっています。

「旧菱屋中 顕彰碑」は、2000（平成 12）年の区画整理の町名変更の際、「菱屋中」の地名が無くなるのを惜しんで建てられました。

東大阪には「菱屋西」「菱屋東」の町名があり、菱屋西新田、菱屋東新田がそのまま町名として残されています。菱屋中新田だった場所は三井家の所有となった後、明治になってから大部分が市内菱江の藤戸家の所有となり、1917（大正 6）年に藤戸新田となっています。町名の「藤戸新田」や藤戸小学校の名が残っています。



西堤神社の鱗殿 大蛇退治の時のウロコが祀られ、雨乞いの祈禱をした



三井新田会所跡
右の建物が農具小屋のおもかげを残している

川中家屋敷林と大東・四條畷の植物

「吉田駅」の北東に川中家の屋敷林

「美杜里乃舎」があります。屋敷林は江戸時代から木々の交換を繰り返し防風林・防火林等の役割をしてきました。面積は0.5haで、1984年に大阪で初めて特別緑地保全地区に指定され、1989年には大阪府の「みどり百選」に選定されています。屋敷林には140種以上の植物があり、多種多様な生き物が生息しています。ムクノ



今米の家並と屋敷林に囲まれた川中家 主屋の屋根が見える

キ・エノキ・ケヤキの大木は秋になると黄葉した後に落葉し、土壌動物に分解され無機栄養として還元されています。また、実を食べに多くの野鳥や小動物が訪れています。マダケ林も整備されていて景観も素晴らしいです。ブナ科のアラカシも多くその実であるドングリを子ども達と一緒に拾うイベントを毎年されていて、奈良の鹿愛護会に寄贈されています。同じ場所でも四季を通じて観察すると楽しいです。

カミヤツデ (紙八手) (ウコギ科)

中国・台湾原産の常緑低木で、葉の大きさに感動します。葉身は長さ幅とも70cmほどの円形で、掌状は7～12裂に分かれます。裂片はさらに中ほどまで2裂になります。葉柄は長さ20～50cm、花は淡黄白色で、花期は11月～12月です。



川中家屋敷林の入口にあるカミヤツデ

同じウコギ科のヤツデは低木でこの屋敷林でも見られます。

ヒイラギ (モクセイ科)

昔から厄除けの木として民家の鬼門に植え、節分にはイワシの頭をヒイラギの枝に刺して門口に飾る風習があります。葉にトゲ状の鋭いきょ歯がありますが、老木になるとトゲがなくなり、「年をとると角が取れて円くなる」と言うことわざのもとになっています。



川中家屋敷林のヒイラギ

オス株の花は大きな雄しべが2本あり、雌しべは小さく退化しています。メス株の花は雌しべが2本で、花柱がながくて発達していて結実します。果実は6月頃に黒紫色に熟し、野鳥に食べられ種子が広がります。

イスノキ (マンサク科)

関東以西、四国、九州、琉球列島に分布します。常緑高木で 20m になります。イスノキコムネアブラムシの寄生では、葉の面に多



数の小型の突起状の虫こぶができます。イスノキコムネアブラムシの虫こぶと (右) イスオオムネアブラムシの虫こぶ
オムネアブラムシが寄生すると丸く大きく膨

らんだひょうたん型の虫こぶができます。イスノキには必ずこの虫こぶが見られます。ヒョウタン型の虫こぶは成熟すると表面が硬くなり、内部が空洞でアブラムシの出入口の穴に唇を当てて吹くと笛になります。ヒューと鳴るので別名ヒョンノキと言われています。虫こぶにはタンニンが含まれ、染料の材料として使われます。材は非常に堅く家具・木刀・杖として使われます。

クワ (クワ科)

落葉の高木ですが、屋敷林のクワは 15m 以上あり、秋には黄葉します。幹は空洞になっています。春に花が咲き初夏には果実が熟します。熟すと赤くなり、甘くて美味しくジャムや果実酒にもします。カイコの餌として昔から知られています。



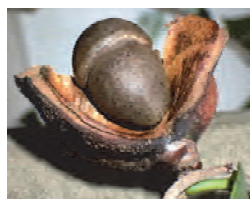
黄葉しているクワの大木

大東・四條畷の林に咲く赤い花

ヤブツバキ (ツバキ科)

庭や公園に 2~4 月に枝先に赤い花を咲かせているのがツバキで、林内に自生しているものをヤブツバキと呼びます。花は筒状で花弁は 5 枚ですが、園芸品種には多くの花弁があります。雄しべの葯は濃い黄色で奥に甘い蜜がたまっていて、メジロ・ヒヨドリなどに吸われる鳥媒花です。花は筒状に咲き、花が散る時は 5 つの花弁と雄しべとくっついたまま落ちるので、お見舞いに持って行ってもいけないと言われています。雌しべの子房には毛がありません。秋に径 4~5 cm の果実ができます。種子は 2~3 個入っていて、種子をコンクリートでこすり、穴をあけて中の子房をほじくりだし、唇にあてると「ピーッ」と鳴るツバキ笛ができます。種子を砕き、蒸して搾ったツバキ油はテンプラ油や整髪料や肌荒れの予防に使われています。

材は堅く緻密で均質、重くて光沢があることから楽器、食器、木魚、くし、ソロバン玉、将棋の駒などに使われます。ツバキ材の木炭は「火付き良く火の粉が飛ばず火持ちよく、熱おだやかな椿炭」と言われ、最高品質の炭だと茶室でも利用されています。



ヤブツバキの花と実





朝鮮半島からの渡来人が拓いた馬飼いの里

5000～6000 年前に広がっていた河内湾が、北から淀川・寝屋川、南から長瀬川や吉田川など旧大和川が運ぶ土砂で埋められて河内湖となり、新開池・深野池として残りました。

深野池の北東部の^{しのぶがおか}忍岡などの丘陵地帯は、朝鮮半島からの渡来人により、馬の牧場として拓かれました。『日本書紀』には、この地域のリーダーだった河内馬飼首荒籠が、今の福井県三国にいた^{けいたいてんのう}応神天皇の5世を説得し、507年に樟葉宮で即位させ^{くすはのみや}継体天皇としたと記録されています。

軍馬は朝鮮半島から河内湖を通して^{しとみやきた}菟屋北遺跡に舟で運ばれました。馬の骨や、集落から馬の埴輪が出土しています。

古代の馬の埋葬跡がある なわて水みらいセンター



馬の全身骨格出土状況のレプリカ

2003年に発見された菟屋北遺跡はたいへん広く、イオンモール

と南側のなわて水みらいセンターとなっています。

この遺跡で、ていねいに埋葬された5歳ぐらいの馬の全身の骨格が見つかりました。^{うるしぬ}漆塗りの馬の鞍や^{くら}シカの角を使って作られた^{ひょうくつわ}轡轡も出土しています。

水みらいセンターの広場は市民の憩いの場として開放され、説明板や全身骨格のレプリカが展示されています。



なわて水みらいセンターの広場の説明版

馬飼いの里 讃良

JR^{しのぶがおか}忍ヶ丘駅の北に^{さんらがわ}讃良川が流れ、古墳だった^{しのぶがおかじんじや}忍陵神社の南に^{さんらでら}讃良寺跡があります。「讃良」は四條畷市全域と寝屋川市・大東市の一部を含みます。このうち、^{すな}砂、岡山地域は^{うの}鷺野（菟野）と呼ばれていました。

藤原京を築いた^{じとうてんのう}持統天皇（645～702）の名前は、^{うののさらのひめみこ}鷺野讃良皇女といいます。讃良地域で馬飼いをした豪族に、^{くら}百済や新羅から渡来系の^{さんら}佐良々氏や^{うの}宇努氏があり、持統天皇の名前と共通しています。

四條畷にゆかりの深い天皇であったことはまちがいないと思われます。



古代河内湖のほとり 讃良の馬飼いの想像図
(四條畷市立歴史民俗資料館 展示資料より)

四條畷市立歴史民俗資料館

東高野街道に面した資料館は、1907（明治40）年に枚方区裁判所^{こうか}甲可出張所として建てられ、土蔵は書類の保管庫として使われていたものでした。

1949年、大阪法務局の書庫となり、1985年から改築して歴史民俗資料館となりました。



日本で最も完全な形で残る木棺 コウヤマキ製
木の鳥は死者の靈魂を天空へ運ぶ ノグレミ製



馬形埴輪 展示やガイド資料にイメージ
ゆたかなイラストが描かれています

縄文時代からの土器や埴輪、勾玉などの出土品の他、農具なども展示しています。

弥生時代^{ほうけいしゅうこう}の方形周溝墓^ぼの分厚い木棺や小さな木の鳥が目を引きます。

古墳時代には朝鮮半島から船で馬を四條畷に運び、育てた「牧^{まき}」だった地域を物語る展示物がたくさんあります。

「飯盛城と三好長慶^{いひもりじょう みよしながとし}」や「鸕野讃良皇女^{うののさららのひめみこ}」などの特別展を行っています。

入口に「東高野街道」の碑があります。

入館料:無料 休み:月曜日 ☎072-878-4558



展示室の元枚方区裁判所甲可出張所の土蔵が奥に見える



弥生時代の土器と木製の鳥

大東市立歴史民俗資料館で学ぼう



大東市の大部分は湖や池、川の跡で、各時代の水とのかかわりが展示テーマとなっています。

資料館

古墳時代建物扉材 完全な形で出土しました で目を引く大きな展示は、古墳時代の木製戸装置です。モミ材で、敷居以外の部材が全部見つっています。5世紀の井戸の井筒に転用されてい

ました。
戸口構造を復元できる最古の貴重な実物資料で、相当の勢力を持った豪族が役所の建物があったことを想像させます。



古墳時代・約1500年前の河内
大東市立歴史民俗資料館常設展示案内より

大和川つけかえと新田開発の展示が充実



足踏みの水車の実物展示

水車や三枚板舟など新田で活躍した道具や、平野屋新田会所跡の記録や市民ボランティアグループの協力で研究された深野池の5つの新田開発区域の推定にも取り組まれています。

入館料:無料

休み:第1第3火曜

☎072-876-7011

ホームページ

<http://rekisupo.com/reki.html>



古代建物扉材発掘場所・四条驛前の団地にある北新町遺跡説明版

四條畷合戦と小楠公墓

四條畷の地名は、古代条里制に由来しています。農民に口分田を与えるための土地区画で、南北1町（108m）6区画を条、東西6区画を里として、1区画36の1町四方を1坪として土地の広さを決めました。四條畷では、1町ごとに川が直線的に西へ流れて、地割の名残をとどめています。

南北朝対立（1336～1392）の時期、楠木正成が湊川で戦死した後、長男正行と次男正時が南朝の命をうけて出陣しました。藤井寺・天王寺の戦いに勝利し、1348年四條畷で高師直本陣軍2万と対決して敗れ、北条で自刃し、「ハラキリ」の地名となっています。

小楠公墓地は、正行らの遺骸を埋めた所と言われ、小さな墓石があった所に1430年頃に植えられた2本の楠木が合体して大木になったそうです。大久保利通の筆による高さ8mの「贈従三位楠正行朝臣之墓」は1878年に建てられたものです。明治政府の確立期、忠臣楠公を再評価したものと思われ、1890年には楠正行らを祭神として四條畷神社が建てられています。



小楠公の墓

飯盛山と三箇 河内キリシタン

1549年、ザビエルによって伝えられたキリスト教は、長崎など九州に12万人、畿内では高槻に8000人、四條畷市の砂・岡山と大東市の三箇を中心に6000人の信徒がいたと伝えられています。

戦国時代、信長に先立って畿内全域を支配した三好長慶が壮大な飯盛城を居城としました。中世の山城としては最大級で、全盛時には、大和・河内・摂津・山城・和泉と四国まで支配したと言われています。

深野池の三箇に築いた支城の城主がキリスト教普及に熱心に協力し、先進的な河内キリシタン活躍の舞台となりました。しかし1568年織田信長の上洛によって飯盛城が陥落。本能寺の変で光秀に加担した三箇では、数百人が集合できたという教会が焼かれています。秀吉の宣教師追放令、家康の禁教令で、キリシタンは壊滅してしまいました。深野池にあった三箇城址は三箇菅原神社が推定地の一つとされています。



深野池の島・三箇にあった三箇城跡と伝わる三箇菅原神社と 裏の児童公園の石垣奥に水月院墓地 水月院は三箇城主屋敷跡とされています。



レイマン墓碑

四條畷市田原台の千光寺跡で見つかりました。フロイスの書簡に三箇殿の元老田原の城主「田原レイマンらと共に堺などを経て、都で信長に会った」という記述が一致。発見されたキリシタン墓碑として最古です。

（大阪府指定有形文化財・四條畷市立歴史民俗資料館蔵）

しゅうらん すみのどう 舟運でにぎわった住道

寝屋川と恩智川が合流する住道は、昔は「角ノ堂」と書かれ、大和川つけかえ後の水運拠点となっていました。角ノ堂浜は、船が集まるたいへんにぎやかな場所で、寝屋川をたくさんの川舟が行き来しました。1950年頃までは、大東辺りから野菜などを積み出し、大阪市中の下肥などを積み帰る肥船も往来しました。

鴻池の樋門が下ろされると、約10日後に上流の水が充満し、深野の各新田に水が行きわたったそうです。

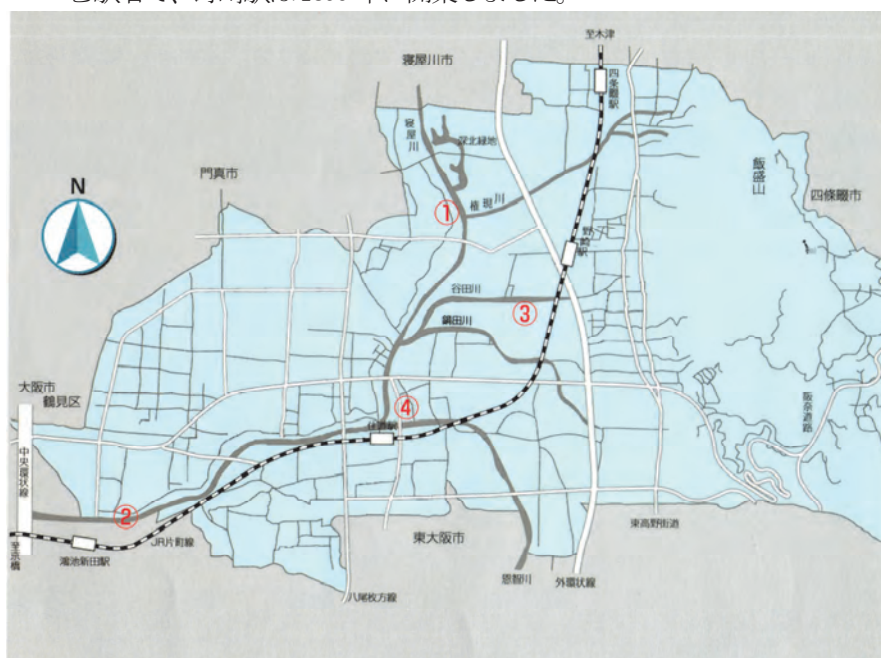
大きな歩道橋の陰になっていますが、海の神、住吉神社がその賑わいを伝えています。



歩道橋下に祀られている住吉神社
「すみのだう」地名由来の碑

鉄道や大工場がやってきた

JR学研都市線、元国鉄片町線のルーツは1893年にできた浪速鉄道で、1895年に四条畷～片町間が開通しました。徳庵～住道は古堤街道に、住道から北は東高野街道に沿い、停車場は四条畷・住道・徳庵・放出・片町でした。四条畷駅は大東市内にありますが、四條畷神社にちなむ駅名で、野崎駅は1899年に開業しました。



1895年に摂河紡績株式会社が最新鋭機械をもって創立。鐘ヶ淵紡績株式会社住道工場となって、1935年から戦後にかけて全盛期を迎えましたが、化学繊維の進出の中で1975年に閉鎖され、「カネボウのまち」だった駅前の景色が大きく変わりました。

寝屋川水系の今昔 ①深北橋 ②鴻池の樋 ③観音井路 ④角ノ堂 「たいとう学」テキスト4 より

治水優先のまちに

1972年の水害の前には、寝屋川と恩智川の合流点に中之島があり、工場や教会、幼稚園もあったそうです。水害の後、中之島は削られて両岸には嵩上げの矢板が打たれ、胸壁構造の言葉がびったりのパラペット護岸（コンクリート構造物を積み）となっています。



大正時代の角ノ堂 住吉神社辺りから下流部をのぞむ
中央の煙突は、中之島にあったレンガ工場

住道新橋は可動橋になっていて、洪水時に恩智川の水位が上がると、鉄扉を閉鎖して橋げたを上昇させて通水断面を確保する仕組みになっています。



住道新橋 南をのぞむ

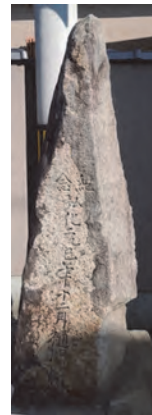
1974 頃改修工事中の住道駅前『昭和の大阪』より 寝屋川下流（西）をのぞむ。
中洲（中之島）をはさんで、右から寝屋川、左から恩智川が合流。右岸のカーブは古堤街道。

昔の寝屋川 太子田あたりの川と樋門建設の記録

寝屋川と古堤街道の間にあった南郷小学校の記念写真が、寝屋川の堤や橋の様子を伝えています。
そのすぐ下流に石材で樋門が造られ、改修されてきたことが街道に立つ石碑に刻まれています。



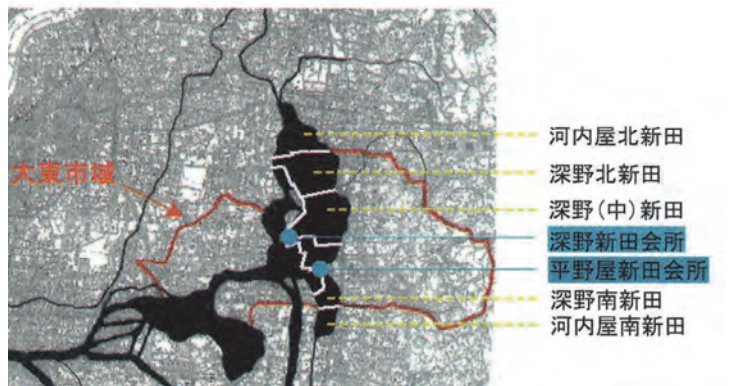
1933 年太子田にあった南郷小学校全員集合写真
住道より下流の橋と寝屋川右岸（北側）



太子田の樋門建設記念碑 「紀念 弘化二乙巳（1845）年十二月樋門開鑿」
裏「安政 5（1858）年石材ヲ以 明治 29（1896）年待樋
明治 34（1901）年樋管」 ※ 開鑿＝開削

深野池の新田開発と平野屋新田会所

深野池の開発は325町1反5畝とされ、初めに落札して開発権を得たのは真宗大谷派難波別院、(南御堂)で、13,006両を幕府に支払ったそうです。しかし、土地造成や井路・橋や堤の整備など負担が大きく、1708年からは年貢の徴収が始まり、新田経営が難しくなって売却します。



深野池跡にできた五新田「新田の歴史と遺産」(平野屋新田市民サポーター会議)より

75町は河内屋に開発権を譲り、新田開発は河内屋北・深野北・深野(中)・深野南・河内屋南の5つの新田に分けてすすめられました。間もなく、深野南新田と河内屋南新田は1715年に平野屋の所有となり、その後に助松屋、天王寺屋、銭屋(高松)と替わりました。

貴重な史跡平野屋新田会所を守れ

「平野屋」の地名が残る一帯に、2000年代初めまで平野屋新田会所がありました。この会所は深野南新田を中心に73町歩程を支配し、6000余㎡に長屋門・裏長屋門・母屋・千石蔵・納屋・庭園・池・船着き場などとともに、新田開発の守り神として勧請した坐摩神社がありました。

所有者が替わった後も平野屋の名が引き継がれてきましたが、会所の役割は戦後の農地改革で役目を終えました。その後、1960年代にご当主、1970年代に管理人さんが亡くなりましたが、地元の方々が1999年、平野屋新田保存推進会をつかって公有化を要望、大東市議会は全会一致で要望の請願を採択しました。

しかし、高松家の債務のために土地が差し押さえられ、2000年代初めには、建売住宅が売り出されました。その後も保存を求める取り組みが続き、2005年には平野屋新田会所を考える会がつくられ、講座や見学会に取り組みました。立派な表長屋門が残り、広い屋敷は荒れていても会所全体の遺構や昔の環境が残り、銭屋川と周囲の堀が残り、銭屋川上流には船を回転させるために川幅を広くとった場所(舟入場)も残っていることが確認されました。



2004年 おもて 表長屋門 まだきれいに保たれていた



2004年 銭屋川と千石蔵 木の枝がからんでいた

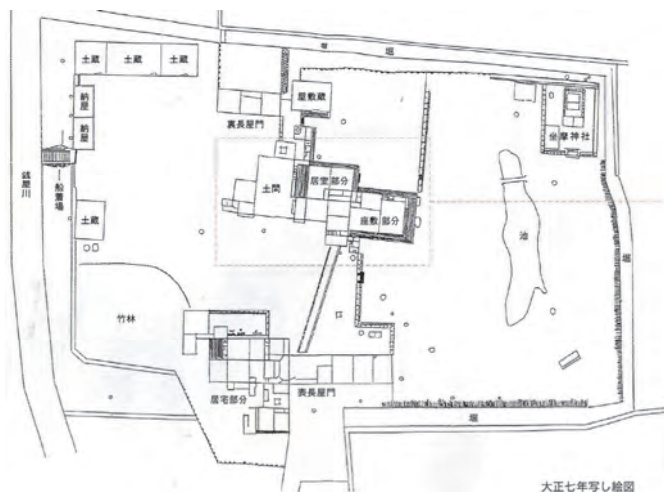
平野屋新田会所は失われたが

2007 年、住宅販売会社の手に渡りましたが、市民や研究者の声に押されて文化庁と大阪府教育委員会の指導のもと、大東市教育委員会による遺構の発掘調査が行われました。その結果、建物は1725 年に建てられたことを始め、貴重な成果が得られました。

熱心な研究や活動の結果、大東市は一部の保存を決定し、千石蔵があった場所と、銭屋川の船着き場の階段が保



平野屋新田会所推定復元鳥瞰図「蘇る平野屋新田会所」（大東市教委等）より



存されています。坐摩神社には、今も3つの町の^{だんじり}地車^{みやいり}が宮入します。

大東市立歴史民俗資料館と協力して、平野屋新田市民サポーター会議や観光ボランティアグループやまびこなど、市民が会所のガイドや深野新田の研究などで活躍されています。

銭屋川など、市内の川や水路の美化や清流復活への取り組みもすすんでいます。



千石蔵の土台部分が残され、新田会所全体想像図が展示されています



銭屋川の船着き場の階段と蔵の石垣（埋め戻されています）
ヒストリア 22 号「平野屋新田会所」（佐久間貴士）より

野崎参りの観音さん

平安時代の中頃、淀川が神崎川と分かれる江口の遊女が、長谷観音に参詣し、夢で「福聚山（慈眼寺）は長谷の観音と同じである。そちらで祈願せよ」と告げられ、慈眼寺に7日間参詣して長患いの病気が治りました。お礼として、深野池の岸边でしばしば洪水にあっていたお寺を飯盛山山腹に移して建て替えたといわれています。毎年4月14日に江口の君像の開帳があります。

1700年頃、元禄の野崎参りにぎわい

元禄時代に5世大真和尚が、芝居小屋の集まる大坂道頓堀などに「25年に1回御開帳の十一面観音を特別拝観できる無縁経法要を4月1日～8日まで開く」と立札を立て、物見遊山を兼ねた参拝客を大勢集めて賑わったといわれています。



「河内名所図会」をもとにした野崎参りの図 大東市立歴史資料館案内より

大和川つけかえ後、深野新田の中に幅4間（約7.2m）の観音井路が通じて、大川（堂島川・土佐堀川）～寝屋川～観音井路（谷田川）を船でさかのぼる参詣に人気が出ました。近松門左衛門の作品や上方落語でも屋形船や船と堤を歩く参詣人のケンカが描かれています。

野崎小唄の流行

娯楽が多様化し、近代には野崎参りが少なくなりましたが、保勝会の人々が歌人今中楓溪に頼んで「野崎小唄」を作りました。1935年、東海林太郎の歌で流行し、翌年映画化されて、参拝客が急増し、田舟や肥舟を洗って毛氈を敷いて急ごしらえの莫産敷船が60隻

野崎小唄
今中楓溪 作詞
大村能章 作曲
野崎参りは 屋形船でまいる
どこを向いても 菜の花ざかり
粋いきな日がさにや 蝶々もとまる
呼んでみようか 土手の人
野崎参りは 屋形船でまいる
お染久松 せつない恋に
残る紅梅 久作屋敷
今もふらすか 春の雨
野崎参りは 屋形船でまいる
音に聞こえた 観音ごさる
お願かけよか 打たリようか 滝に
滝は白絹 法のりの水

も客を運びました。現在は5月1日から8日に法要が行われています。

お染・久松の塚

境内に「お染・久松」の塚があります。もともとは1707年にあった事件を浄瑠璃や芝居に脚色したようで、2歳のお染を子守の久松が溺れさせてしまったという説もあり、羽曳野市の野中寺にはお染の兄の天王寺屋権右衛門が1722年に建てた墓があります。





大坂からの水路と街道 大東市立歴史民俗資料館案内より (大和川つかえ直前ようす)

古堤街道と東高野街道の交点に立つ道標

京都と高野山につながる古い道

東高野街道は、京都府の八幡で京街道と分かれて河内の東部を通り、河内長野で西高野街道と合流します。平安時代にはできていたようで、多くは国道 170 号線 (旧) と重なっています。

古堤街道と奈良街道

東高野街道と交わる古堤街道は京橋から寝屋川の右岸に沿って続き、諸福から住道の間では北側に下り坂があり、蓮根畑だった昔を偲ばせます。中垣内越えと呼ばれ、清滝街道 (清滝越え) と共に、1958 年に阪奈道路ができるまでは、北河内から奈良への大切な道でした。

東大阪地域からの暗峠奈良街道は、古代からの道で伊勢と奈良を結ぶ最短の道でした。1660 年頃、旧吉田川と恩智川の分岐点に近く、幕府は街道唯一の宿場として「松原宿」を公認しました。旅籠 16軒や人馬の乗り換え業務の店などがあって賑わったということです。

枚方～八尾の河内街道は、明治時代になって呼ばれるようになり、奈良街道と菱江東で交わります。

獺師とガンの物語を伝える「鴈塔」

昔むかし、獺師が雁を打ち落としたが首が無かった。翌年仕留めた雁は、羽の下に首を抱いていた。前に仕留めた雁と夫婦だったのかと獺師は後悔し、供養塔を建てたという。

この話に感銘を受けた中野村の寺尾幸助が 1749 年に「鴈塔」を建てています。

さらに古い「鴈塔」は 1645 年に建てられ、「当所古老傳号鴈石塔婆也」と刻まれ、1953 年国道 163 号改修の際に 2 つに割れて見つかりました。



消防署横の清滝川堤防に立つ新しい「鴈塔」



英田北小学校南門横の松原宿の説明板より

水郷のまち 御領の町並と田舟体験



辻本家住宅 特別公開日のみ見学できます

御領は鎌倉時代に集落ができ、門構えのある大きな屋敷や水害に備えた段蔵が並び建つ町並が魅力です。



田舟乗船場からすぐ、段蔵のそばの水路

庄屋だった辻本家住宅が、

2015 年に大東市で初めて国登録有形文化財となっています。この地域が明治の初めに堺縣だったことを物語る高札なども残されています。

タイムスリップしたような落ち着いた民家群をながめながらの田舟体験がすてきです。

御領水路を再生

汚れた井路を埋めるか再生するかと真剣な話し合いの後に、地元の方々の熱意で保存再生された水路です。せせらぎ水路保存会の皆さんの貴重な活動で水郷が保存されました。水路の下に下水管を通し、水路の水は昼間だけ湧池水みらいセンターの処理水を流しています。

短い乗船ですが、すばらしい民家群に囲まれ、頭を打ちそうな橋くぐりなど、スリルも満点です。



菅原神社から折り返す田舟

田舟体験は4月～9月 第1第3日曜日 10:00～12:00 ☎072-873-8021



せせらぎ水路イラストマップ 成瀬国清さん画



川で遊ぶ子ら 1950年代か

水郷の昔

村中にはりめぐらされた用水路は、小魚をとったり泳いだり、子どもたちの遊び場でした。



ハスの花（根はレンコン）と
レンコン掘り 1957 年



^{さんまいた}三枚板（三枚板舟）と言われる田舟が家と田の間を行き来し、移動や農作物の運搬に使われていました。名産のレンコン掘りにも田舟が必要でした。

水を上げたり、水をかき出したりするために、水車（踏み車）が使われました。「みずぐるま」と呼ばれ、^{もろふく}諸福や赤井に水車製造所がありました。

御領菅原神社の西側、公園に沿った道に「排水路記念碑」が立っています。今は道になっていますが、1944 年に掘られ砂子井路に直結させた井路の跡です。海拔 1.5m の水郷をまもるために、水郷の水を抜く工事として勤労働員の学生たちの労働で完成したそうです。学生たちには、お米のご飯のかわりにレンコンだんごを提供して喜ばれたと伝えられています。



水車 1977 年に復元された水車 御領

おかげ燈籠と「ぬけ参り」

「御領神社」交差点の東南角、門真市と大東市の境に小さな^{おかみ}龍神社があります。雨と龍の字で、農業に大事な水の神のようです。ここにおかげ（^{どうろう}お可け）燈籠があります。江戸時代初めから 60 年ぐらいを周期に伊勢参りが流行し、1830 年が最も多かったそうです。奉公中の庶民が旅の用意や通行手形も無いまま「ぬけ参り」をし、「おかげ参り」と呼ばれました。

「打ちこわし」を恐れて、大商人が店舗や屋敷を開放して弁当や^{ぞうり}草履を配ったりしました。^{あわはん}阿波藩は船を出して便宜をはかりました。深野池の跡や御領の村を眺めながら、たくさんの人が伊勢に向かったことでしょう。

無事に帰ってきたお礼の「おかげ燈籠」が大東市内に数か所あります。



天保 2 (1831) 年 ^{おかげ}お可け
と刻まれた^{りゅう}龍神社の燈籠

大東水害と寝屋川総合治水

1972 年水害と大東水害訴訟



1972 年 7 月 10 日から 13 日にかけて、寝屋川流域では時間最大雨量 22.5mm、総雨量 300mm 近い豪雨があり、寝屋川流域全体が被災し、浸水戸数約 36000 戸に及びました。特に、大東市内では、12 日の夜、府道生駒線、市役所、市民会館、鍋田川、たんだがわ谷田川のすべてがいわゆる「どぶづかり」となりました。

野崎駅周辺の谷田川では未改修区間があり、極端に川幅が狭くなっている上に、土砂堆積も多く、著しく水が流れにくくなって浸水被害を生じさせたとして、床上浸水等の被害を受けた大東市野崎地区及び北条地区の住民（71 名）から、国、大阪府及び大東市に対し、翌年 1 月 31 日に損害賠償訴訟が提起されました。

訴訟は 17 年間にまたがり、第 1 審と控訴審では原告勝訴となりましたが、上告審では控訴審の判決が破棄されて差戻審で原告敗訴となり、さらに再上告がなされましたが棄却され、被告の勝訴が確定しました。

争点は、自然の公共物である河川の設置・管

理に過失が認められるかどうかの基準内容で、最高裁は、「過去に発生した水害の規模、発生ひんどの頻度、発生原因、被害の性質、降雨状況、流域の地形その他自然条件、土地の利用状況、その他社会的条件、改修を要する緊急性の有無およびその程度等、諸般の事情を総合的に考慮し、諸制約のもとでの同種・同規模の河川の一般的水準及び社会的通念に照らして安全性を備えていると認められているかどうか」を判断基準として、「改修計画が進んでいない河川については、その計画に不合理な点がなく、後に変更すべき特段の事情が発生しない限り、未改修の部分で水害が発生しても、河川管理者たる国には損害を賠償する責任はない」と判決しました。

この判決は、その後の水害訴訟の基準として、現在も受け継がれています。



深野 と 大東市役所西側 1972 年

寝屋川総合治水と深北緑地（寝屋川治水緑地）

大東水害の後、寝屋川水系では治水計画が根本的に見直され、総合治水計画が進められています。その要となっているのが治水緑地（遊水地）と地下放水路（トンネル）です。

深北緑地は大東市深野北と寝屋川市河北中町にまたがり、大阪府営の多目的遊水地として1981年に開設され、面積約41ha（調節池面積は50.3ha）に及びます。西側は寝屋川、北側は江蟬川、南は権現川に接しています。

平常時は運動広場や公園として利用され、大雨の時には増水した河川の水を一時貯留して、洪水による被害を防止する遊水地の役目を担います。公園の周囲は寝屋川の堤防と同じ高さの堤で囲まれており、寝屋川、江蟬川、権現川と接する堤の一部は意図的に通常の堤防より低い「越流堤」となっており、増水時に水を緑地内へ誘導するようにしています。

緑地内は3つのゾーンに区切られ、まず「Aゾーン」に貯め、さらに必要な場合は「Bゾーン」「Cゾーン」に貯水します。3つのゾーンの合計有効貯水容量は146万 m^3 （小学校プール約5000杯分）で、排水時は緑地の南西にある寝屋川排水門を開いて排水します。1982年8月に初めて水を溜め、2019年1月時点で合計19回貯水しています。1999年と2004年にはCゾーンまで貯水しました。

Aゾーンの越流堤の下流にある池は深野池と名付けられています。大和川つけかえ前にあった深野池とは別物です。



江蟬川からの越流堤 ふだんは上まで歩けます



右岸遊歩道と寝屋川 右手奥が深北公園の越流堤



寝屋川への排水門と公園内の深野池



大東探訪マップ





大和川つけかえの史跡探訪ガイドブック編集委員会

飯田裕子 黒田伊彦 小松清生 澤井健二
谷 幸三 辰谷直子 堀越善孝 万歳雅則

協力者 今村與志雄 鹿島 純 河内晴彦 川中知子 佐久間貴士 豊芦勝子
中 九兵衛 野島 稔 林田恵子 別所秀高 安村俊史

大阪商業大学商業史博物館 旧河澄家 鴻池新田会所 四條畷市

四條畷市立歴史民俗資料館 大東市 大東市立歴史民俗資料館

東大阪市国際観光室 東大阪観光協会 東大阪市人権文化部文化財課

2020 年 3 月 編集・発行

大和川市民ネットワーク

☎080-2444-2098 fax072-254-1717

<http://ycn-2009.ciao.jp>

この本は（公財）河川財団の助成を得て作られたものです。



河川
基金